



平成 19 年 12 月 14 日

各 位

会社名 アストマックス株式会社
代表者名 代表取締役社長 牛嶋 英揚
(コード番号: 8734)
問合せ先 専務取締役管理部長 小島 健太郎
(電話 03-5447-8400)

平成 20 年 3 月期 11 月度の月末運用資産残高及び運用収益率のお知らせ

今期(平成 20 年 3 月期) 11 月度のプログラム別月末運用資産残高及び運用収益率につきまして、添付のとおりお知らせいたします。

11 月は、ドル安傾向が強まるなか、月初は商品市場への投資資金の流入が加速し、商品先物市場は総じて堅調に推移しました。しかし、月末に掛けて原油価格が下落に転じたことやドル安基調に一服感が出たことを背景に、月末に掛けて軟調に推移しました。

当社が公表しておりますアストマックス商品指数(AMCI)は、10 月末の 334.863 に対し、11 月末は 327.329 となり約 2.3%の下落となりました。

エネルギー市場では、海外原油価格が米国内の原油在庫が減少したことをきっかけに急騰しましたが、その後は米国のエネルギー需要低下懸念などを材料に高値から反落しました。また、ユーロドルの史上最高値更新などを材料に 100 ドルを目指す動きとなりましたが、これを超えられなかったことに対する失望感が高まり、月末に掛けては利益確定売りにより、90 ドルを下回る水準にまで下落しました。東京エネルギー市場でも NY 市場の影響で値動きの荒い展開が続きましたが、円高の影響もあり総じて上値の重い展開となりました。

貴金属市場では、米ドルの軟調さが引き続き材料視される一方、原油価格の動向に左右される動きが続き、値動きの荒い展開となりました。金については、前月に続き、27 年ぶりの高値を更新しましたが、その後はユーロドルの上値が重くなったことで月末に掛けて下落する展開となりました。

非鉄金属市場では、アルミが米国景気の不透明感を背景に軟調に推移しました。また、10 月以降軟調に推移していた小麦は南米での輸出停止などを材料に上昇に転じ、大豆も世界的な需要増から 34 年ぶりの高値を更新する展開となりました。

11 月の本邦株式市場は下落しました。引き続き欧米金融機関のサブプライムローン関連損失拡大の懸念があるなか、短期 Libor が急上昇し信用収縮の不安が台頭したため世界的な株式売りの形勢となりました。結果 TOPIX は 10 月末の 1620.07 から、11 月末には 1531.88 と大幅下落して終わっています。

こうした市場環境の中、当社が運用する資産残高は前月比 13,349 百万円減(36.5%減)の 23,229 百万円となりました(一部資産の数字は、速報値を含む)。11 月の大幅な資産残高の減少は、商品指数

連動型及びそれに付随する債券運用戦略によるものでした。11月上旬にかけて商品価格が急激に上昇する中、大口顧客による「利益確保目的」の解約があったことによるものでした。

尚、個別の運用資産残高、月次収益率は以下のとおりとなっております。

1. 運用資産残高

(単位：百万円)

プログラム名		平成19年 4月	平成19年 5月	平成19年 6月	平成19年 7月	平成19年 8月	平成19年 9月
商品投資 顧問事業	アストジェネシス	1,042	1,034	1,041	1,541	1,592	1,719
	アストプレリユード	281	270	255	230	0	—
	アストオプション	181	187	178	189	195	184
	AMCI	7,624	8,119	11,899	11,909	11,177	12,160
証券投資 顧問事業	アストオプション	20	19	19	19	19	0
	ファイナンシャル・ アストシンフォニー	315	—	—	—	—	—
	アストジェルズ	196	199	205	204	184	176
	債券運用戦略	7,915	9,618	16,932	17,199	16,188	17,674
	その他	3,047	3,067	3,098	3,201	3,065	2,981
合計		20,624	22,517	33,630	34,495	32,423	34,898

プログラム名		平成19年 10月	平成19年 11月	平成19年 12月	平成20年 1月	平成20年 2月	平成20年 3月
商品投資 顧問事業	アストジェネシス	1,704	1,720				
	アストプレリユード	—	—				
	アストオプション	173	178				
	AMCI	12,820	8,250				
証券投資 顧問事業	アストオプション	—	—				
	ファイナンシャル・ アストシンフォニー	—	—				
	アストジェルズ	163	158				
	債券運用戦略	18,713	9,940				
	その他	3,002	2,981				
合計		36,578	23,229				

2. 運用収益率

プログラム名		平成 19 年 4 月	平成 19 年 5 月	平成 19 年 6 月	平成 19 年 7 月	平成 19 年 8 月	平成 19 年 9 月
商品投資 顧問事業	アストジェネシス	-0.19%	-0.55%	0.58%	0.13%	0.65%	0.34%
	アストプレリユード	-1.58%	-2.85%	-3.07%	-5.66%	-4.03%	—
	アストオプション	1.00%	3.03%	-4.74%	6.00%	3.08%	-15.50%
証券投資 顧問事業	アストオプション	0.06%	0.00%	-0.31%	-1.24%	0.80%	0.71%
	ファイナンシャル・ アストシンフォニー	0.06%	—	—	—	—	—
	アストジュエルズ	-1.20%	2.44%	3.33%	0.46%	-8.98%	-3.22%

プログラム名		平成 19 年 10 月	平成 19 年 11 月	平成 19 年 12 月	平成 20 年 1 月	平成 20 年 2 月	平成 20 年 3 月
商品投資 顧問事業	アストジェネシス	-0.88%	-0.61%				
	アストプレリユード	—	—				
	アストオプション	-6.03%	2.88%				
証券投資 顧問事業	アストオプション	—	—				
	ファイナンシャル・ アストシンフォニー	—	—				
	アストジュエルズ	-6.58%	-2.27%				

- (注) 1. 上記の数値は原則、毎月月初より 10 営業日までに開示いたします。
2. 運用資産残高は時価純資産額、または時価純資産額にノーショナル・エクイティ(想定運用資産)を加えたもので、表示単位未満を切り捨てて表示しております。
- * 先物市場を使った運用の場合、実際に証拠金として必要な資金が少額であることから、顧客によっては実際に預託する資金に想定運用資産を加えた資産額で運用する様に契約上取り決めることが多く、通常、この契約運用資産額が管理報酬の計算上のベースとなっています。この様に顧客との契約運用資産額のうち実際に資金が預託されていない金額をノーショナル・エクイティ(想定運用資産)と言います。
3. 複数の契約が存在する運用プログラムについては当該プログラムのコンポジットを作成し運用資産残高、運用収益率を算出しております。また、運用収益率は、成功報酬を伴う運用プログラムについてのみ掲載しております。
4. 「アストオプション」に関しては商品投資顧問事業と証券投資顧問事業の二つの事業部門にありますが、両運用プログラムのうち、証券先物等で運用するものを証券投資顧問事業に、商品及び金融先物やその他の運用のものを商品投資顧問事業に分類しております。
5. 総運用資産残高につきましては 1%以上の修正が生じた場合はその内容を開示いたします。

以上